

目 次

はしがき

第1章 意味論とは？	1
1. 言葉の意味を構成するもの	1
2. 意味論で用いられる基礎的概念	8
第2章 語彙意味論	13
1. 動詞の分類：Vendler (1967)	13
2. 項の述語に対する意味役割：主題関係	22
2.1. 時間領域 (Temporal Field)	29
2.2. 所有領域 (Possessive Field)	30
2.3. 同定領域 (Identificational Field)	33
2.4. 着点の有界性	34
2.5. その他の主題関係と残された問題	37
3. 統語構造への写像	47
4. 「主語」が果たす意味	55
5. 修飾	57
5.1. 副詞	58
5.2. 法助動詞	67
5.3. 形容詞	70
6. まとめ	74
第3章 論理の意味	79
1. 時制と相：Reichenbach (1947)	79

2. 否定と作用域	89
3. 数量詞と作用域の相互作用	95
3.1. 存在数量詞と指示的不透明性	99
3.2. 普遍数量詞の配分読みと集合読み	105
4. 束縛変項としての代名詞	108
4.1. 再帰代名詞と発音されない代名詞	114
4.2. 相互代名詞	117
5. 不透明性：信念文脈の場合	121
6. まとめ	124
第4章 情報構造	129
1. 焦点と前提	129
2. Yes-No 疑問文における焦点と前提	133
3. 否定文における焦点と前提	138
4. 焦点と結びつく小辞	141
5. 叙實的述語と前提	146
6. 確定記述と前提	149
7. まとめ	158
第5章 話者の視点	161
1. エンパシー	161
1.1. 「やる」と「くれる」	163
1.2. 再帰代名詞「自分」とエンパシー	166
2. 再帰代名詞「自分」と自覚条件	168
3. まとめ	171
参考文献	173
索引	177